

母校の トピックス



第76回城陵祭

《城陵祭テーマ》「架(かける)」

文化の部 9月2日(月)・3日(火)

令和6年度は、熱中症特別警戒アラートが設定された年であり、熱さへの対策が一層求められる中の実施でした。生徒会は「恵那高冷やそうプロジェクト」や体育館屋根への散水等工夫を凝らして、文化の部成功に向けて努力しました。台風10号の影響で延期となり土日の実施はできませんでしたが、平日開催でも、600名を超える卒業生、保護者に来校してもらうことができました。



体育の部 9月4日(水)

熱中症が心配されるなか散水や休憩時間の確保、日程の工夫など多くの対策をしての開催でした。コロナ過後、復活して2年目の体育の部であり、体育委員会が主体となり、昨年の反省を活かした体育の部となりました。

準備期間は、文化の部のクラス活動と軍団活動を毎日交互に行い、1つ1つの活動の質を上げて取り組みました。

当日は晴天で、各リレーや綱引き、騎馬戦など、自軍の応援に各生徒が声をあげて大いに盛り上がり、生徒達にとって将来思い出す高校生活の思い出の1つになったと思います。

なお、令和7年度の体育の部は、東美濃ふれあいセンターを使用しての室内開催となります。

Ena High School Topics

好評販売中!!

100周年記念誌

恵那高校100年の歴史を掲載。初代校長阿部栄之助と文豪島崎藤村の関わり、歴代校舎の画像、米軍政部GHQによる急速な学制改革、岐阜国体の開催など、永遠不滅の記録を同窓生にお届けします。

DVD
2枚付記念誌
+
写真で綴る
学校沿革史

(郵送無料)
価格 4,800円

お問い合わせ先
岐阜県立恵那高等学校
TEL0573-26-1311

手に入るのは
今だけ!

好評販売中!!

100周年記念切手

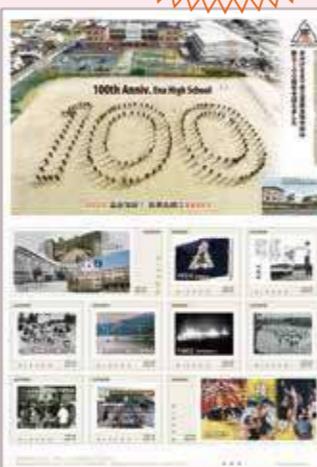
恵那高の歴史を綴った切手シート。校舎の移り変わりや校章の制定など10枚の歴史のシーンが切手になっています。

価格 2,000円

(1シート84円10枚付)

アエルショップにて
発売中!!

記念グッズも
どうぞ!



24号

2025年(令和7年)
6月1日

城陵

JYORYO

発行/岐阜県立恵那高等学校同窓会
発行責任者/阿部伸一郎

〒509-7201
岐阜県恵那市大井町1023-1
TEL&FAX 0573-25-0253
HP http://www.jyoryo.net/

活躍する恵那高生!

校長 森岡 孝文

同窓会会員の皆様には、平素より母校の教育活動に多大なるご支援とご協力を賜り厚くお礼を申し上げます。

ここ数年、「学び」や「働く」環境が加速度的に変化はじめています。特に生成AI等の情報技術の進歩と社会実装化は、求められる若者の資質・能力や今後の労働市場に大きな影響を及ぼすと言われています。

このような状況において、本校は、文部科学省から昨年度(令和6年度)のスーパーサイエンスハイスクール(SSH)の再指定に続き、今年度(令和7年度)は新たにDXハイスクールの指定を受け、新時代に対応した学習内容や学習環境を更に充実させていくことにしました。県内においても本校は先進的な取組やこれまでの実績により、県教育委員会から昨年度に引き続きフラッグシップハイスクールに指定され、県下の探究学習等の質の向上に向け、本校の成果の普及が期待されているところです。

また、令和6年度は、例年にも増して部活動が輝かしい成果を挙げてくれた年となりました。ボート部、音楽部、科学部、新聞文芸部が全国大会出場、陸上競技部、軟式野球部、男子ソフトテニス部、卓球部が東海大会出場を果たしました。なかでも、音楽部は創部以来初めて中部大会を勝ち抜いて全日本合唱コンクールに出場し、さいたま市大宮のソニックシティホールで堂々と歌声を響

かせてくれましたし、軟式野球部は秋の東海大会で見事優勝を勝ち取ってくれました。更に年度末には、英会話部が文部科学大臣賞を受賞したといううれしい知らせをいただきました。



8月には全国総合文化祭が岐阜県で実施されました(「清流の国ぎふ総文2024」)、本校の新聞文芸部と音楽部の部長が生徒実行委員長を務めるなど、恵那高校の生徒が全国の生徒の中心となって大会を盛り上げてくれました。

変化が大きく先が見通せない世の中ですが、「不易と流行」と言うように、変化にきちんと対応しながら、これまで本校で大切にしてきた「学び」や活動の機会を大切にして、さらに発展させていきたいと考えております。

同窓会の皆様には、一昨年の創立100周年記念を契機に、ソフト・ハードの両面で様々なご支援をいただき誠にありがとうございます。「新しい100年」へ踏み出すに際し、同窓会の皆様のご支援に重ねてお礼を申し上げますとともに、引き続き本校の教育活動に一層のお力添えをお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様のご健康とご多幸、そして城陵会のますますの発展を祈念いたしまして挨拶をさせていただきます。

令和6年度卒業生 主な合格大学

令和6年度 大学入試 国公立大学 104名 合格! (普通科38名)

● 京都大学	3名 合格	● 名古屋大学	8名 合格	● 早稲田大学	3名 合格
● 東京科学大学工学院	合格	● 大阪公立大学	合格 (普通科1名)	● 南山大学	4名 合格 (普通科のみの数)
● 岐阜大学医学部医学科	合格	● 名古屋市立大学	6名 合格 (普通科1名)	● 中京大学	7名 合格 (普通科のみの数)
● 山梨大学医学部医学科	合格	● 富山大学薬学部	3名 合格 (普通科1名)	● 名城大学	17名 合格 (普通科のみの数)
● 大阪大学	2名 合格	● 慶應義塾大学	3名 合格		

合格した主な大学

◆ 京都大学 理学部	2名	◆ 大阪大学 理学部	物理	1名	◆ 名古屋大学 理学部	1名
◆ 京都大学 経済学部	1名	◆ 東北大学 工学部	電気情報物理工	1名	◆ 名古屋大学 工学部	マテリアル工 2名
◆ 東京科学大学 工学院	1名	◆ お茶の水女子大学 生活科学部	食物栄養	1名	◆ 大阪公立大学	1名 (普通科)
◆ 岐阜大学 医学部 医学科	1名	◆ 名古屋大学 文学部	人文	1名	◆ 岐阜大学	13名 (普通科4名)
◆ 山梨大学 医学部 医学科	1名	◆ 名古屋大学 法学部	法律・政治	1名	◆ 信州大学	11名 (普通科6名)
◆ 大阪大学 人間科学 人間科学	1名	◆ 名古屋大学 経済学部		3名	◆ 名古屋市立大学	6名 (普通科1名)

合格者数	□ 国公立四大 102名 (過年度生 4名)	□ 私立四大 289名 (過年度生 10名)
(延べ人数)	□ 専門学校 2名	□ その他 13名

・活躍する恵那高生・岐阜県議会議長、東濃三市長の恵那高同窓生

「後輩に思う」

岐阜県議会議長 水野 正敏 (高29回生)



「野球部の岩山大翔君、甲子園出場おめでとう!」。5月5日に開催された全国高等学校軟式野球選手権大会、春の軟式交流試合in甲子園に西日本選抜チームの一員として出場が決定したことを知らせ、本人の意気込みを伝える4月17日付の中日新聞の記事に思わず「拍手」。

昨年秋に実施された東海大会で13年ぶりに優勝を決めた恵那高野球部の快挙に野球部OBの一人として心からお祝いを申し上げます。

11月4日の決勝戦、対静岡商業戦は1対0と恵那高らしい戦いぶりに、三重県津市まで応援に行くことができなかったことが残念でなりません。

目標とする大会で優勝という最高の結果を得られたことは、これまでの練習、試合での1球1球、恵那高野球部での全ての時間が忘れる事の無い経験として、これから長い人生、必ずや生かされること信じております。昭和50年の夏、私の野球部最後の大会は岐阜市内の大雨により中止。絶好調だったのに野球部最後の試合は、私の記憶から欠落しています。



恵那市長 小坂 喬峰 (高33回生)



岐阜県立恵那高校の皆様へ
100年を超える伝統ある恵那高校にとって、皆さんが築きつづける輝かしい実績は次の100年への希望です。

英会話部の皆さん、世界と手を取り合い、地域課題に向かって「アートマイル国際協働学習プロジェクト」での文部科学大臣賞受賞、本当におめでとうございます。

音楽部の皆さんのがんばりで、全国大会初出場での銅賞受賞も、日々の努力と情熱の証です。

地元企業とおもちゃの段ボール製品を開発した生徒の皆さん、子供たちは皆さんのことを決して忘れないと思います。

皆さんの挑戦が、恵那高校をさらに輝かせています。

皆さんの情熱が私たち恵那市民の誇りとなっています。

2022年11月にOpenAIが公開したChatGPTは世界を劇的に変え、4月に始まった大阪・関西万博では空飛ぶクルマも登場しています。

未来を創るのは皆さんです。世界に感動を届ける存在となるべく、自信と誇りを持って、未来へ羽ばたいてください。ご活躍を楽しみにしています。

瑞浪市長 水野 光二 (高24回生)



恵那高等学校の皆さん、こんにちは。

瑞浪市長の水野光二です。

さて、私は大学卒業と同時に民間企業で20数年勤務し、平成15年2月に瑞浪市議会議員として、政治家としての第一歩を踏み出しました。

市議会議員を1期4年間努めたのち、平成19年7月には市長に就任させていただきました。

市長就任以降、現在、5期目の市政運営を担う真っ最中ですが、これまで「政治家は今日の幸せを実現する責任とともに、将来の幸せを実現する責任を担っている」を政治信条に市政運営に携わってきました。

その信条を押し通すため、反対の声を受けながらも将来の幸せ実現のために身を切る思いをしながら決断したこと一度や二度ではありません。

自分が正しいと信じた道を貫く、この「決断力」の礎は間違いなく、恵那高校在学時に築き上げられたと思います。

在学生の皆さん、かけがえのない学生生活を一日として無駄にすることなく、多くの経験を積んでください。こうした経験が必ず将来の皆さん的人生の道標になってくれると思います。

どうか、高い志をもって頑張ってください。

中津川市長 小栗 仁志 (高39回生)



伝統ある恵那高等学校の卒業生として、また中津川市長として、「城陵」に寄稿する機会をいただき光栄に存じます。勉学に励み、部活動に汗を流し、仲間と楽しんだ日々は、今も良き思い出です。

「文武両道」の精神を受け継いだ在校生の皆さんのが、学業・スポーツ・文化活動のあらゆる場面で目覚ましい活躍をされていることを拝察し、大変誇らしく感じています。その姿に、母校の伝統がしっかりと根づいていることを実感しています。

貴校のあるこの地域は、リニア中央新幹線が開業する将来、東京や大阪まで約58分、名古屋まで約13分で結ばれる場所に大きく変わってきます。開業時には、自動運転自動車や空飛ぶクルマ、都会と地元の二地域居住の生活があたり前になっているかもしれません。

そのときに地域の中心となり、まちの未来を担うのは在校生の皆さんです。そんなふるさとに誇りを持ち、地域とともに歩み、志を持って羽ばたくことを願い、心からエールを送ります。

創立記念講演会

「恵那の霧と大地の歴史 —その課題に取り組んで—」

古山 享嗣 (高23回生)

令和6年度の創立記念講演は、本校23回生の古山享嗣さんを講師としてお迎えしました。コロナ禍で実施できなかった時期を超えて、数年ぶりの講演となりました。

古山さんは日本気象協会で気象に関する多くの研究を行ってこられました。今回の講演では、古山さんがこれまでお仕事としてだけではなく、長年の趣味としても取り組まれてこられた、恵那の気象と地形を題材に、科学的に考えるということをテーマにお話しいただきました。

講演は、保古の湖から見た美しい霧の恵那盆地の写真から始まりました。古山さんの研究は、学生だった頃に感じた「恵那駅からまきがねトンネルの辺りまでは霧が発生しているのに、武並や釜戸になると霧が晴れるのはなぜだろう?」という日常生活の中の素朴な疑問からスタートしました。文献調査をしてみると、岐阜県で最も霧が発生しているのがこの恵那地域だということを知り、非常に驚かれたそうです。そこから現象を観察し、仮説を立て、検証を重ねていく中で、霧が自己増殖していくメカニズムについて從来唱えられてきた定説とは異なる説を唱えられました。観察にあたっては、一般市民を巻き込んで多くのデータを収集し、得られたデータについては冊子を作るなどして、研究内容を市民に還元するということを長年続けてこられたそうです。

長年の調査の結果は、論文としてまとめられましたが、論文の査読の段階では、査読者、編集者、他の研究機関において意見の食い違いが見られ、危うく却下されるところだったそうです。そんな状況を古山さんは、「こんなに面白いことはない」と評しておられました。



た。「研究者が、いかにものを見ていないか、もしくは頭の中だけで考えているか」というお言葉は、私たちの日々の生活にも通じるところが大きいと感じました。

昨年末、古山さんの一連の研究は気象学会から表彰されました。その表彰理由は、定説を覆した研究内容だけではなく、その研究にあたって一般市民の協力を得たことが、市民科学(シチズンサイエンス)の先駆けとして高く評価されているところが、人を巻き込んで研究を進められる、古山さんらしいところだと感じました。

本校在学中には、当時無かった地学部を結成したり、独自の天気予報を毎日お昼の校内放送でながしたりしていました。高校の時点ですでに現在の古山さんが形作っていたエピソードをお聞きすることができました。

退職後には、防災のためには気象だけでは役に立たないという意識から恵那地史研究会にも所属されましたが、そこで学ぶ中で、恵那の大地の壮大な歴史に対して感動されたそうです。断層やカルデラなどの地学分野から、はたまた東山道の歴史まで、幅広いことに興味を持たれ、今も学び続けておられるそうです。

自然現象に対する「ときめき」や「驚き」、学習や生活の中で「感動」し心搖さぶられる現象に対して、自ら疑問をもち、自らの手を動かして解決していく。そんな恵那の大先輩の「生き方」をご講演いただきました。自分の好きなことや疑問に対するあくなき「探究」が、個々の人生を充実させてくれだけではなく、社会に対して貢献につながっていくのだと感じることができた、貴重な機会でした。



東京大学見学会

令和6年8月2日(金)・3日(土)に、1年生12名、2年生6名が、東京大学見学会に参加しました。本行事は昨年度より恵那高校創立100周年記念事業の一環として実施し、本校OBである東京大学金子隆之准教授の研究室見学や東京大学の施設見学を行いました。また、2日夜には首都圏の大学に通う本校卒業生との座談会を行い、3日は丸一日、各自首都圏にある大学のオープンキャンパスに参加しました。



【参加者感想】

●金子隆之准教授の研究室見学や東京大学見学を通して、自らの進学志望をより確かなものにすることができました。また、先輩との座談会や首都圏大学のオープンキャンパスに参加することを通して、目標達成に向けての具体的な取り組みについて、理解を深めることができました。

●都会の同じ年の生徒の姿や受験生たちの様子を見て、良い刺激をもらうことができました。このモチベーションを忘れることなく、3年間勉強を頑張りたいです。

軟式野球部

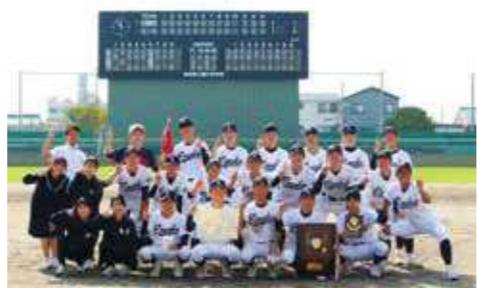
軟式野球部東海大会優勝



結果

1回戦 津工業(三重3位) 10-3 (7回コールド)
2回戦 桜丘(愛知1位) 4-1
準決勝 東邦(愛知3位) 4-0 (延長10回)
決勝 静岡商業(静岡1位) 1-0

令和6年10月26日から11月4日にかけて行われた、全国高校軟式野球選手権大会70回記念 春の軟式交流試合in甲子園に本校生徒1名と職員1名がそれぞれ西日本選抜として選出されました。これは恵那高史上初の甲子園出場となりました。



新聞文芸部

恵那高校と岐阜総文

新聞文芸部顧問 工藤 志栄

恵那高校では現在は新聞文芸部として活動しています。城陵70周年記念誌によると、文芸部の発刊する「若樹」は昭和23年創刊、城陵新聞は新聞部により昭和25年に創刊されているようですが、今は部誌と新聞の両方を作成しています。いつから新聞部と文芸部が合体したのかは定かではありません。

令和6年度は第48回全国高等学校総合文化祭「ぎふ総文2024」開催年度であり、恵那高校森岡孝文校長が、岐阜県新聞部門の部会長として総指揮をとり、恵那高校の新聞文芸部・部長3年、古根陽向が生徒実行委員長として大会を運営しました。

本大会は全国総文2巡目のトップバッターとして開催された記念すべき大会でした。そもそも、総合文化祭は各県の持ち回りで、岐阜県は昭和59年の第8回大会以来40年ぶりの開催となります。また、第8回大会の時には、「新聞」という部門は開催されておらず、

事実上岐阜県では初の新聞部門大会開催でした。

総文祭は、県内初の新聞部門運営で試行錯誤の連続でしたが困ったときには不思議と救世主が現れ、たくさんの課題を解決しながら、盛会に終わることができました。

地区的運営協力生徒を束ねたのは、本校の8名の部員と12名のボランティア生徒達でした。大会期間の初日は「先生、何をしたらよいですか?」と戸惑いがちな場面も見られましたが、4日間の運営をする中で「自分たちで考えて行動しよう」という機運が生まれ、改めて、自走しようとする恵那高生のポテンシャルの高さが輝いた大会となりました。



音楽部

第77回全日本合唱コンクール全国大会報告

令和6年10月26日(土)、埼玉県さいたま市大宮のソニックシティホールで開催された全国大会に出場しました。9月の中部コンクールで本校が呼ばれた時のあの歓喜は今でも忘れることはできません。

出場が決まってから1か月、常連校ぞろいのこの大きな舞台に向けて、自分たちらしい演奏をしてこようと部員たちで決め、課題を



洗い出しながら練習を重ねました。

いよいよ本番。朝一番トップバッターでの出場でしたが、部員たちに変な気

負いもなく、温かい拍手に迎えられて、彼ららしくのびのびと演奏することができました。結果は銅賞。全国の壁の高さに大きな刺激をもらった大会となりましたが、また来年、ここに戻ってこようとなんて約束をしました。

創部以来初の出場でしたが、保護者の方々をはじめ、多くの同窓生のみなさまからあたたかいエールとご支援をいただき、無事に大会を終えることができました。本当にありがとうございました。



木股健二基金「恵那地球塾」令和6年度の活動報告

留学支援制度

○5月1日(水) 第7期生留学説明会

生徒 29名・保護者 10名の参加がありました。昨年度6月に帰国した第4期生のあいさつの後、校長から木股基金設立までの経緯、今後の展望などの説明がありました。委託団体であるISAより長期留学・正規派遣留学、短期留学募集について詳細な説明があり、参加者は熱心に耳を傾けていました。

○5月18日(土) 同窓会総会

前述の第4期生1名が参加し、長期留学の成果と感謝の気持ちを報告しました。それが経験し、学んだ内容を堂々と発表してくれました。会場は感動に包まれ大拍手で報告を終えることができました。



○5月31日(金)～6月30日(日) 第5期生(長期)3名帰国

5期生3名が全課程を修了し、無事帰国しました。

<第5期生 長期留学を終えて>

▶自分が成長したと思う点は、多様な考え方を受け入れることができたことです。アメリカには、様々な国から来た人々がとても多くいます。そのため、多くの考え方、文化、生活習慣が存在します。自分の意見と異なることを聞いたときも、相手がなぜそう考えるのか、背景状況を踏まえて考えることで、理解したり、自分の意見が深またりすることを実感しました。(米国ミズーリ州)

▶私の留学生活は苦しくて悩むこともありましたが、1年を通して困難や不安を克服して自信がつき、精神的に強くなることができました。また、人との出会いの尊さや周りの人間への感謝の気持ちをよく知ることができた1年間でした。この1年間は絶対に僕の今後の人生をうまく導くものとなるでしょう。(米国ワシントン州)



▶「帰りたくない」と思えるような留学することが、私の目標でした。何とか最初の三か月間を乗り越え、それからの七か月間はほんとに濃厚で、学びの多い期間でした。そして帰国日、私は「帰りたくない、もう少しここに居たい」と心の底から思いました。そして、家族に「楽しかったよ。」と胸を張って言えたことが何よりも嬉しかったです。(米国ケンタッキー州)



○7月 8日(月) 第6期生認定証授与式・出発激励式

○7月19日(金) 第6期生(短期) 1名 ニュージーランドへ出発

○8月15日(木) 第6期生(長期) 1名 米国へ出発

選考を前年度までに終えた6期生2名の認定証授与式と出発激励式を行いました。同窓会長、保護者を迎えて盛大に行われました。出発を目前に控え、決意を深めている様子がうかがえました。第6期生は短期1名、長期1名がそれぞれ希望にあふれ順次出発しました。



○9月19日(木) 第6期生(短期) ニュージーランドから帰国 第6期生 短期留学を終えて>

私が特に印象に残っていることはオールブラックスの試合を学校のインターナショナルの友達と見に行ったことです。オールブラックスの本拠地であるニュージーランドで見るラグビーはとても迫力があり、言語が違っても、みんなで一つのチームを一丸となって応援するのは本当に楽しかったです。(ニュージーランド・ウェリントン)



プログラム参加支援制度

○12月25日(水)～27日(金) 第7回グローバルスタディーズプログラム(国内留学体験)



25名の1～3年生と、各国からの留学生4名・講師1名が参加し、実施されました。SDGsや思考方法などについても研修を深め、英語漬けの3

日間を楽しみました。この模様は『恵峰ホームニュース(2月1日発行)』にも掲載されました。

○3月8日(土)～12日(水) SSHハワイ海外研修への支援

コロナ禍で中断していたハワイ研修が再開となり、4名が参加します。今回新たに木股健二基金から支援することになりました。

その他の活動

○11月4日(月) 令和6年度岐阜県中高生留学フェア(岐阜県教育委員会)への参加

岐阜県の「留学支援金」を利用した留学生の代表として第5期生が参加者に留学体験を県の代表として発表、2名は留学コーナーで参加者に懇談をするなど活躍しました。

(令和7年2月28日現在)

第24回東京城陵祭開催

昨年4年振りに100周年に合わせて10月開催した東京城陵祭、第24回も秋の開催としました。秋開催の決め手は、故郷の栗きんとんをお土産として出席者に渡したいとの想いでした。

会場も昨年同様銀座ライオン6階クラシックホール、9月23日(月)開催、出席者は49名でした。

恵那からは森岡校長先生、阿部同窓会長、西山同窓会副会長、東濃同窓会からは瑞浪高校首都圏同窓会伊藤会長、宮田幹事長にも御出席いただきました。



お願い

- 東京城陵会は毎月第2金曜日・銀座ライオン7丁目店2階で、月例会を開催しています。申し込み必要なし、来られる方は会費3,000円でランチとビールで語り合いましょう。
- 東京城陵会では郵便料金値上げを受けて、城陵祭のご連絡をラインとメールに切り替えさせていただきました。現在グループラインに52名登録いただいています。QRコードからの御登録を皆様にお声掛けいただけますようお願い申し上げます。



中津川恵那高会(恵蘇会)総会

第69回中津川恵那高会(恵蘇会)総会は11月23日(土)パルティールAIにて開催されました。

校歌斉唱ののち勝会長の挨拶、高木恵那高同窓会副会長、森岡恵那高校校長の来賓挨拶、定期総会の部と進みました。

定期総会では令和5年度の会計報告、令和6年度の方針が提起され、令和7年度の役員として吉村浩平新会長以下新役員が提案され、承認されました。懇親会の部には17名が参加し、勝野直前会長の乾杯で始まり、城陵歌で締めくられました。



瑞浪恵窓会総会

令和7年3月9日(日)瑞浪市地域交流センター「ときわ」にて、令和6年度瑞浪恵窓会総会が開催されました。物故者への黙祷、校歌斉唱に続き会長である水野光二瑞浪市長の挨拶、来賓代表として阿部同窓会会長の挨拶があり、総会では令和6年度の事業報告、会計報告および令和7年度の事業計画、予算が承認されました。

その後、森岡校長が恵那高の近況について報告し、100周年記念式典で使用された「城陵100年の歩み」が上映され、懇親会へと移りました。懇親会参加者は21名とやや少なかったですが、水野会長、吉村中津川恵那高会会長、阿部同窓会会長の間では中京学院大学の移転について意見が交わされるなど、活発な交流がおこなわれ、最後は城陵歌斉唱で締めくられました。



東京城陵会 森岡 加代

阿部同窓会長乾杯の発声に続き歓談が始まり、用意した7つのテーブルは賑やかに会場はやがてひとつになっていました。プログラムは前東京大学副学長関村直人先生のご講話、お楽しみ抽選会へと進んでいきます。今回抽選会の景品は、2月に急逝された小林正喬先輩から寄贈された30作品を超える立体色画紙です。ここでまたひと盛り上がり。全員での校歌斉唱、閉会の言葉が終わっても皆別れ難く、ライオンビル3階での2次会へと流れていきました。出席者32名で大盛況でした。

【東京城陵会 月例会のご案内】

会場／「銀座ライオン7丁目店」
日付／第455回 令和7年1月10日(金)
第456回 令和7年2月14日(金)
第457回 令和7年3月14日(金)
第458回 令和7年4月11日(金)
第459回 令和7年5月 9日(金)
第460回 令和7年6月13日(金)
第461回 令和7年7月11日(金)
第462回 令和7年8月 8日(金)
第463回 令和7年9月12日(金)
※第25回東京城陵祭 令和7年10月 4日(土)
第464回 令和7年11月14日(金)
第465回 令和7年12月12日(金)

※開催の有無確認先
銀座ライオン7丁目店／☎ 03-3571-2590



個人の部

- 33組 市岡 俊祐さん
第78回国民スポーツ大会
ローリング競技 少年男子シングルスカル 3位
33組 鶩見 夏希さん
第78回国民スポーツ大会
ローリング競技 少年女子ダブルスカル 3位
32組 北澤 孝太郎さん
JICA国際協力 中学生・高校生エッセイコンテスト 2024
独立行政法人国際協力機構中部センター所長賞受賞
35組 鵜飼 泰志さん
35組 平林 鋭洸さん
35組 安江 考弘さん
35組 吉田 眞崎さん
以上4名は、第22回 生活創造コンクール
一般社団法人先端加速器科学技術推進協議会賞受賞

25組 伊藤 花菜さん

令和6年度 岐阜県青少年展
絵画の部 最優秀賞受賞
14組 相場 韶さん
ショパン国際ピアノコンクール in ASIA 出場、
全日本ピアノコンクール 2024 出場



団体の部

- 科学部
ロボカップジュニア・ジャパンオープン 2024 出場
音楽部
第78回全日本合唱コンクール 出場
第48回全国高等学校総合文化祭「清流の国ぎふ総文 2024」 出場
新聞文芸部
第48回全国高等学校総合文化祭「清流の国ぎふ総文 2024」 出場
軟式野球部
第39回秋季東海地区高等学校軟式野球大会 優勝



令和6年度 PTA表彰

3年生を対象に人前で華やかに表彰されるようなことはなかったが、縁の下の力持ち的な働きで学校や社会に貢献した生徒をPTAが表彰。今年度3名が表彰された。代表として34組佐藤悠来さんに原PTA会長から表彰状が渡されました。

34組 佐藤 悠来さん

第48回全国高等学校総合文化祭「清流の国ぎふ総文2024」の総合開会式生徒代表実行委員として活躍しました。

33組 田代 桃子さん

第48回全国高等学校総合文化祭「清流の国ぎふ総文2024」において合唱部門生徒代表実行委員長として活躍しました。

36組 古根 陽向さん

第48回全国高等学校総合文化祭「清流の国ぎふ総文2024」において新聞部門生徒実行委員長として活躍しました。

名古屋恵那高会総会

9月28日(土)「ルブラ山王」にて令和6年度名古屋恵那高会総会が開催されました。
鮎澤会長の司会進行のもと総会も滞りなく進み、役員選任においては現役員全員が留任となりました。懇親会には来賓等も含め34名が参加し親交を深めました。

